

年間第 15 主日 ・ 福岡教区創立 100 周年・準備の二年目

第一朗読:申命記 30:10-14//第二朗読:コロサイ教会への手紙 1:15-20//福音書:ルカ 10:25-37

一年前にわたしたちは、福岡教区創立100周年記念日に向かって歩み始めました。一人ひとりにとって、信仰を深めるときとなり、福岡教区にとってこの地域に派遣された教会として福音を証し、のべ伝える決意を新たにするために与えられた「恵みのとき」です。

福岡教区が創立された1927年7月16日から98年が経ちました。その間、信徒、修道者、司祭、司教の働きによって教会は成長し、この地域で福音の光が灯されたのです。今まで福岡教区を担ってくださった多くの人々に心から感謝しなければなりません。教区の宣教司牧方針に書いてあるように、「福岡教区の共同体が今まで歩んできた道を振り返って**感謝**します。また、福音に触れるときに伝わってくる**情熱**に促されて歩み続けようとしています。それによって、**希望**をもって将来に向かって行くことができると確信しています」。何回も繰り返したように、「**感謝**」「**情熱**」「**希望**」はわたしたちの歩みを導く光です。

同時に、長い歩みの中で教会は、福音の光を見失って自分中心にものを見たり、自分の都合だけでことを決めたり、排除されている人々に目を向けなかったり、また、人の心を傷つけたりしたこともあります。98年間の歩みを振り返るときに、これらの事実も見えてきます。神と人々にゆるしを求め、福音に立ち返る恵みを祈らなければなりません。教区創立100周年の記念日までの三年間は償いと回心のときでもあります。

準備の一年目は終わりました。「互いに支え合う交わりの教会となる」ことを目標にした一年目でした。「ともに歩む」喜びをより深く味わうことができたのでしょうか。典礼において声と心を合わせて神を賛美し、同じ食卓を囲んで養われてきた自覚が深まったのでしょうか。また、交わりを大切にしながら、みことばの分かち合いや様々な学びのプログラムを通して共同体の基礎と活動のための原動力を養う場を作ることができたのでしょうか。色々な理由で、共同体から遠ざかった兄弟姉妹のことを心にかけて、この方々とのつながりを作り直すように具体的に努力したのでしょうか。わたしたちの教会の交わりに人々を招き、温かく迎えるように十分に務めたのでしょうか。一年の間に与えられた恵み、喜び、励ましを感謝しなければなりません。

二年目のテーマに取り組む前に、一年間を振り返る必要があります、各小教区の委員会や総会でその振り返りを行い、前進できたことを感謝し、努力が足りなかったこと

を正直に認め、歩み続ける決意を新たにしましょう。一年・一年は神様の賜物です。大事にしたいと思います。

そして、二年目を迎えます。二年目のテーマは、「**未来に開かれた教会となる**」になっています。特に、青少年の司牧と外国から来られた信徒とのつながりを深めることを目指しています。教区の宣教司牧方針にもっと細かくこのテーマの取り組みが説明されていますし、各小教区や地区でできることについてのヒントが示されています。また、個人的にできることも勧められています。それぞれの小教区で、二年目の間に特に何を大事にしたいかについて話し合っていたいただきたいと思います。青少年との関わりは、どの共同体にとっても重要な課題です。その取り組みを活性化するためのよい機会になるように祈ります。

今日の典礼の中でいただいたみことばは、この二年目の歩みを照らしてくれます。「永遠の命を受け継ぐために」難しいことは要求されていません。ただ、遭遇する出来事や人々との出会いを真剣に受け止め、その中から聞こえてくる「神の呼びかけ」に耳を傾けて、具体的に応えることです。

追いはぎに襲われた人に出会ったサマリア人はこれを示しています。彼は律法の一番大事な掟を実行しています。「心を尽くし、精神を尽くし、力を尽くし、思いを尽くして、あなたの神である主を愛しなさい。また、隣人を自分のように愛しなさい」。あのサマリア人は倒れている人を前にして、その人を助けてあげました。これは「永遠の命」に導く道です。質問した律法の専門家にイエスは、ただ、「行って、あなたも同じようにしなさい」と言いました。今日の典礼の第一朗読のことばの意味を明らかにする場面です。「み言葉はあなたのごく近くにあり、あなたの口と心にあるのだから、それを行うことができる」。み言葉を心に留め、行うことは「未来に開かれた教会」を築く道です。

100周年の記念日に向かって歩み続けます。特に、二年目の間、わたしたちの教会の未来を築いていくために大きな役割を果たすはずの青少年や外国から来られた信徒との関わりを深めながら進んでいきましょう。年齢、職業、活動などの多様性に富んだ共同体の絆を深めながら、みことばに耳を傾け、具体的に置かれている場において福音を生きるように支え合っていきましょう。

今日、ミサの中で福岡教区創立100周年のための祈りを唱えたいと思います。特に最後のことばを深く味わってください。「天の父よ、これからもあなたの愛にとどまりながら、聖霊に導かれて福音の光をともにしていくことができるようにわたしたちを見守ってください」。恵み豊かな二年目になりますように。